



通詞島 (つうじしま) 沖
1月～9月頃は安定して観察できる



1994年～1998年に天草で行われたイルカ調査によると（個体識別178頭+αをある統計プログラムで計算したところ）個体数はおよそ218頭と推定されました [1998年時点]。

これらのイルカのうち大部分が、2000年春に鹿児島県長島沖に移動するということが起きました。そして1年後に再び、通詞島沖に戻ってきたということです。（少数は移動先に留まった）この短期移動（移住!?）は、その前に個体識別調査がなされていたお陰で判明した事実です。

一体なぜ移動したのか？あるいは、イルカたちにとってどんな意味があったのでしょうか。さらに、なぜ戻ってきたのでしょうか。もしイルカたちと話すことができたなら、知りたいことがいっぱいありますね。23年前のこと・・・覚えているのでしょうか！？

イルカの基礎知識 移動①
野生のイルカやクジラの生態について、定住型と回遊型という分類があります。前者は生涯を通じて、ある程度限定的な海域で過ごし、後者は広く海を移動します。例えば大型のヒゲクジラでは太平洋の端から端！までという大規模な回遊パターンもあります。このような移動分類のほかに、定住海域内の小規模な移動や「移住」のような行動も確認されています。
移動の理由は、出産や育児、繁殖、海流、季節、水温、昼夜などなど（特定は難しい）様々です。人為的な影響もあることでしよう。天草のイルカは、基本的には「定住型」と分類されます。それでも**秋頃は、有明海を北上し、しばらく天草不在**（😭）ということがか数年の定番。なので、いつ戻ってくるのか毎年ドキドキしています。

背景は雲仙普賢岳
秋は島原のほうへ北上



天草イルカ調査室

天草漁協 通詞島沖イルカ環境実態調査事業



やってるよ！

イルカの移住

天草のイルカたちは、大概100頭を超えるような集団でいつもいっしょにいます。みんなでいっせいに行ってみんなでいっせいに戻ってきたというのが、なんとも微笑ましいなあーと感じるのは私だけでしょうか(^_^)
当時、すでに天草のイルカウォッチング観光客は約4万人。事業者の方々には、大変な時期だっただろうと思います。なにはともあれ、2023年現在、こうしてイルカたちがいてくれることがとっても嬉しいなと思います。



Amakusa
Iruka Lab
SDGs

記事や活動についてのお問い合わせ



天草イルカラボ



amakusa_dolphin



検索